アメリカ留学日記（2）

早稲田大学 3 年・UC サンタバーバラ校留学中　馬場　健夫

アメリカに九月から交換留学をしてからもう五ヶ月が経ってしまいました。冬休みの旅行は終わり、今は冬学期の真っ只中です。人間というものは適応が早い生き物でして、「非日常」の生活はもはや快適な「日常」生活です。山あり谷ありの慣れない時期は過ぎて、最近では落ち着いてたるんできたせいか太ってしまい、ダイエットに励んでいるこの頃です。今回は留学生活をして感じたこととして、「日本人であること」をテーマに、アメリカでの学生団体での経験と中国、韓国留学生との交流について書こうと思います。

冬学期が始まって、新しく始めたことがあります。それは、「アメリカの大学生コミュニティーに参加すること。」日本で受講していた「留学サバイバル講座」でお世話になった松本先生に紹介していただいたこのコーナーで言うのはなんですが（笑）、「英語での勉強ならやろうと思えば日本でもできる。せっかくの九ヶ月ならアメリカ人と直接コミュニケーションを取ることをしたい」と思い、日本でいう「サークル」に四つ所属しました。その中の一つとして、ここでは「共和党学生の集まり」を取り上げます。ちなみに、他の三つはアルティメットフリスビー、日系人コミュニティー、そしてコミュニケーションメジャー学生の集まりです。

この集まりは College Republican という団体で、当大学（University of California, Santa Barbara）の共和党の学生が毎週一回集まってミーティングをするというものです。活動内容としては、講演会の開催、機関紙の発行、共和党関連イベントへの遠征などです。この団体に所属した理由は「違いを知る」ためです。自分の専攻は国際関係学で、特に紛争解決に興味があり、将来は国際公務員になりたいと考えています。留学の目的の一つとして「多様な価値観を理解する」と前回あげました。自分の留学先はカリフォルニアにあるということもあり、Democrat が多く、自分の意見も民主党寄りです。紛争解決を仮にも志すならば､自分とは違った意見の持ち主と交流して価値観を理解しなければならない、なかなか共和党支持者に会えないならばこちらから接触してみようと思い、この団体に接触（潜入？）しました。

その活動の一環としてサクラメントでのカリフォルニア州共和党大会のユース向け会合があったので、メンバーの一員として参加しました。三日間の日程、および日常の活動などで感じたことは、「価値観、歴史観の違い」です。あるメンバーの言葉を引用するならば、「第二次世界大戦は善と悪の戦いだ。原爆投下は戦争早期終結、アジアの解放、本土攻撃の回避による潜在的犠牲者の削減などの理由で正当化される。」とのことです。ここでこの議論に詳細に振れることは避けますが、自分としては「原爆は決して正当化されるものではないし、彼らの理由も独善的であり、日本が太平洋戦争を起こしたことはただの悪者だからではなく、植民地時代という時代背景からのやむを得ない事情があった」と思っています。アメリカ人による善と悪との戦争という概念、これは今も昔も全く同じ構造ですね。

話は変わります。今のルームメートは韓国からの留学生で、たまに歴史問題や領土問題に関して話すことがあります。また、親友の中国人院生ともよくこの問題を話し合いました。彼らの言葉を借りれば、「日本がアジアを侵略した理由が、西欧諸国に対抗するためにやむを得なかったなどと主張したとしても、決して正当化されるものではない。日本はアジア諸国に対して酷い行いをし、今でも謝罪せず、それどころかなお首相は戦犯を祀っている靖国神社に毎年行っている。」とのことです。驚いたことは、中国、韓国人の友人の祖父はどちらも日本軍に殺されそうになったり、拷問されたりしたそうです。今、こうして孫の代がアメリカの地で一緒に留学生として仲良くやっているのを、彼らは想像できたでしょうか。かくいう自分も、アメリカ嫌いの祖父がまだ健在であったならば、アメリカ留学は難しかったと母親に言われたことがあります。歴史とは重いものです。

カリフォルニア大学サンタバーバラ校